

サンダーソニア
Sandersonia aurantiaca
 (ユリ科)

1980年代にニュージーランドから球根が輸入され栽培が始った新しい球根切り花。釣鐘型の花はめずらしいが、育種が進んでいないため花色は鮮やかなオレンジ色と黄色のみ。小花は受粉するとすぐに褐変し、釣鐘が縮む。1茎に8輪前後の小花があり、下から開花し、老化する。

1) 品質評価基準

項目	判定基準	備考
小花の老化	A: 花弁が変色せず、張りがある B: 花弁の変色はないが、やや張りがなく C: 花弁がやや変色(褐色)し、張りがなく D: 花弁が著しく変色し、張りがなく縮む	健全な小花調査の参考にする。
老化した小花数	8輪前後の小花のうち、 A: B, C, Dの小花がない B: Bの小花が1~2輪ある C: C, Dの小花があり、A, Bの小花が4輪以上 D: A, Bの小花が3輪以下	小花数は8輪前後、つぼみはすべて咲く。下から老化する。
新葉の萎凋	A: 張りがあり、萎凋がない C: やや張りがなく、ややねじれ萎凋 D: 張りがなく、ねじれ萎凋	新葉が萎凋したときには小花の老化がかなり進行している
下葉の黄変・褐変	A: 退色・黄変がない C: 葉脈間がやや黄変 D: 黄変または褐変	
その他		

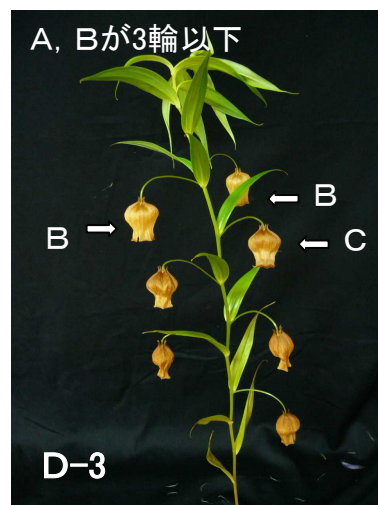
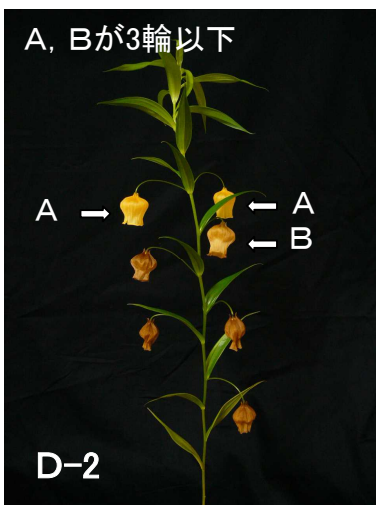
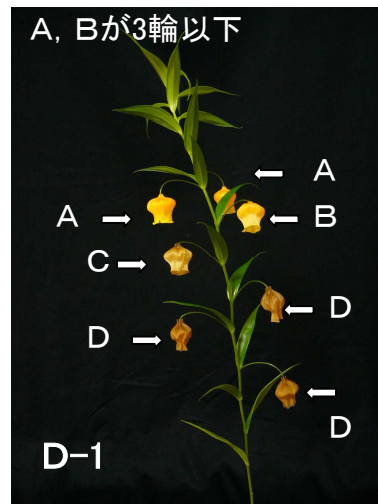
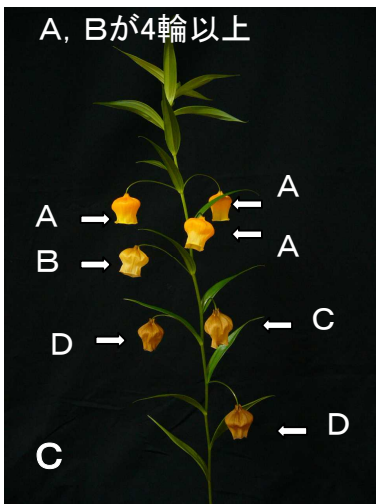
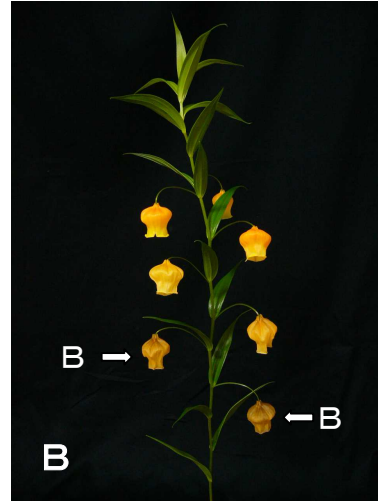
2) 留意点

水あげはよい。

葉先につるがついている場合は他の花にからみつくので除去する。

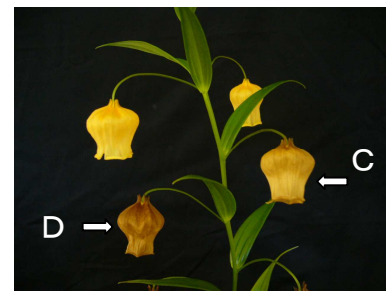
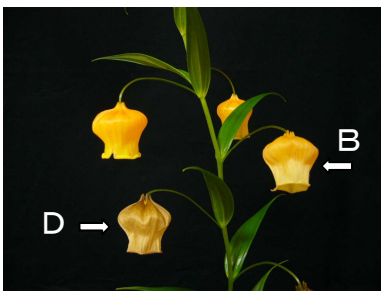
小花数が少ないうえ、新たに発達するつぼみもなく、小花の変色(濃黄が褐色)がはっきりしているので老化の判定が容易。

3) 開花



4) チェック事項

小花の老化



新葉の萎凋



下葉の黄変・褐変

